

都島だより

発行責任者
榎本嘉信

〒179-0072
東京都練馬区光が丘3-3-5-209
TEL.03-3938-5183



関東浪速工業会 会報 2005年(平成17年)5月 第31号

事務局 馬江 治喜

〒234-0056
横浜市港南区野庭町696-6
TEL.045-841-8885

NEWS 31号

題字デザイン 岡田宏三

関東浪速工業会・現在会員数◆合計617名

◆M・機械131名、ME・機械電気25名◆A・建築111名◆E・電気・電子工学193名◆C・土木・都市工学57名◆CI・工業化学・理数64名◆L・普通13名◆工専23名

平成十七年度 関東浪速工業会会長ご挨拶



C20 榎本 嘉信

今年度の会長を前年度田中会長(電気科)より引継ぎ数ヶ月経過しました。この会は会員相互の親睦を図るのが主たる目的としております。今日まで各科幹事、歴代会長の熱心な会運営のご努力により、恙無く円滑に推移してまいりました。これも偏に会員諸氏のご協力の賜物と日頃から深く感謝しているところでです。今後、尚一層幹事とともに知恵を出し合い、新しい会員の獲得を図り、定例行事、総会、観劇会、見学会、ゴルフコンペ、その他について魅力ある計画を策定し、会員の皆様と親睦を図りたいと常々考えているところでです。

昨今の社会情勢を見ますと、イラク問題、日中韓のギクシャクとした摩擦、JR西日本、の尼崎における電車脱線事故など連日テレビ、新聞等により報道されており不安と焦燥が募る毎日です。このような時にあたり、私たち都工卒業生も国民の一人として平和、社会秩序の維持に貢献する努力が必要かと感じます。母校の講堂が戦災で焼ける以前、講堂の正面両側に「温故知新」格物致知なる掛け物がありました。このものが都工精神の象徴であり、我々の座右の銘として後輩達に永遠に伝えて行きたいものと思っております。最後に皆様方のご活躍とご家族のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げ挨拶いたします。

Mニュース紙面刷新と タイトルデザイン

A28 岡田 宏三

関東浪速工業会の会報Mニュースも、30号を越し、遂に31号となりました。そんな機会に幹事会で、会報をメール受信できる人にはメール送信にしようという話が決まりました。サイズもA4で四頁に変更することになりました。そこでサイズ変更に伴うレイアウト変更の作業を再び仰せつかったため、この機会に題字デザインの意図と経緯を説明させていただきます。

当初は、機械科が熱心に会報を発行してました。何方かの発案で浪速工業会全体の会報を発行してみたら……との一声で早速計画が実行されることになりました。先ず表題について、Mニュース(都島の頭文字M)という案が出たのですが、機械科の頭文字Mに勘違いされるのでまずかろうと機械科より、意見あり。しかし、他の科からは別胆問題は無かるうと満場一致で決定。皆さんの心の広さに感激したの思い出します。「さすが都工出身者の会……」

ところでこのMのタイトルデザインの心は……Mの形を大きな二つの山と見立ってます。一つ目の山は学校生活。二つ目の山は社会人になって活動する生活。そして、Mの右側に太い横棒が有りますが、これは最後まで有意義で楽しい浪速工業会が続きますようにとの願いを込めたマークです。お見知りおきの程よろしく。そして末永くお愛読の程。



伊香保温泉 一泊懇親会に参加して

M36 西村 功

「エーそんな事があったんですか？」と聞く事全てが都工歴史の私の知らないことばかり。そのような話題が次から次へと宴会の席で、又往復の車中で飛び出し、ただだ卒業後初めて関東浪速工業会の行事に参加した喜びを感じた旅行でありました。都心より少し遅い桜が散り始め、木々の新芽がふき出す4月24日、25日、上州伊香保温泉「岸権旅館」(老舗の旅館でキンゴンと読みます)に於いて一泊懇親会が、ゴルフコンペ参加者12名を含む23名の昭和16年、40年卒迄の多彩な会員が出席のもと、盛況裏に開催されました。伊香保温泉の名に魅せられ参加を決めたという不肖の身でありましたが、旅館内にある三箇所の温泉と心づくしの料理、竹下夢二記念館の見物、源泉元の露天風呂でのくつろぎと温泉街のそぞろ歩きと、十分に一泊温泉旅行を満喫したにとどまらず、諸先輩の話題の中に都工の歴史と先輩方の経験談から幾多の新しい発見をするという、初参加の私にとっては大変有意義な旅行となりました。この懇親会の実施にご尽力頂いた幹事の方々と、年代と関係なく和気あいあいこの会を盛り上げて頂いた諸氏に感謝を申し上げます。



都島工業学校の思い出Ⅱ



M21 金田 龍之介

入学してから20日も経たないうちに、学校から帰ってきてまなしに空襲警報のサイレンが鳴り出した。警防団の人が自転車に乗って「ほんまの空襲だつせえ！今東京はアメリカの爆弾が落ちてまんねんで。空襲警報発令！空襲警報発令！」と怒鳴りたてて走り去った。入学まもなく、空襲があった時は学校に駆けつけるようにと訓辞があったのでゲートルを巻いて走って登校した。私の家は高倉町一丁目だったので早く駆けつけられたが、その日は何も起こらず無事であった。ドーリットル麾下のアメリカ海軍艦載機の日本初空襲であった。

機械科の応援練習が放課後であった。各科こぞってやるのだが新入生が応援歌を教え込まれるのだ。機械科応援歌第一部「陣鼓の響き！ソレ」としこかれる。「陣鼓の響き、関の声。寄せ来る敵の雄叫びは淀の川瀬に鉄腕撫する我に正義の力あり。碧空高く雲晴れぬ。行きこう熱の健男児、炎と燃える唐紅いは血潮の色や応援旗(以下略)」第二部「空は朝焼け」という題で、『空は朝焼け緑の風に友よ雄々しく鐘とりて、戦う時ぞ白羊の長旗棚引く今日の日に』(以下略)第三部「蜀魂ひとたび地に鳴きて再興の時ぞ来たりけり、立てよ振るえよわが健児。都上の覇者とうたわれん」これは前年の競技に敗けたのを今年こそは勝つぞと云う意気込みをこめて歌う。最後に出てくるのが「応援正歌」で実に堂々とした、位いのある歌であった『桜の宮居に酔いし春生駒風の末枯れに盛者必衰の理りも、何せんものぞ若人よ。白く瀬々らぐ淀が瀬に、朝暉くだけで登るとき、葦の岸辺に燃えて

待つ、昇天せんず龍の意気」(以下略)余談だが私は、昭和31年に一人で東京に出て来て明治座で初めて舞台に出演した時、浜町中の橋から大声で「陣鼓の響き」を歌って、恐いものは何もないぞ！と闊歩していったものだ。

一年生の夏和歌山県太田に水泳合宿で行った時、助教が土木科や建築科の上級生で、夜大阪屋旅館の大広間で土木科の歌を習ったが面白かった「どんなもんじやよねソリヤ土木の意気はよ、ボイラーやエリキに負けやせぬよソリヤボイナンダヨ。太平洋上にね、ソリヤ鉄橋かけてね日本とアメリカ陸つなぎよ、ソリヤボイナンダヨ！」今おもうと先見の明がこの歌にはあったようだ。大阪屋の海辺の窓下に先輩達が食べて捨てた西瓜の皮が波に洗われていたのが遠い日の思い出として残っている。

金田龍之介氏・観劇会報告

E36 馬江 治喜

例年、新橋演舞場で公演されている金田龍之介氏の観劇会を今年は急遽4月9日に実施しました。当初観劇会は9月に実施する様に予定していましたが、9月の公演は中止との連絡を頂き、急遽A28卒・岡田幹事の御配慮により、切符を取って頂き、実施の運びとなりました。今回はスーパー歌舞伎「ヤマトタケル」で、金田龍之介氏は「帝役」で、すばらしい演技で観客を魅了していました。参加者 M26玉城氏、C18秋月氏、C18北里氏、C20榎本氏、C33松本氏、E35田中氏、E36石垣氏、E36竹村氏、E36馬江 計10名



見学会のお知らせ

放送博物館



例年恒例の見学会は、今年一月にリニューアルオープンしました「放送博物館」(港区愛宕二丁目)の見学を左記の様に計画しました。ご家族等同伴者の参加も大歓迎です。多数のご参加をお願い致します。

集合日時 7月24日(日)13時30分
集合場所 JR新橋駅前 機関車広場
参加費 無料

申込締切 7月10日(日)
申込方法 参加希望者は、科、卒年、氏名、参加人数をTEL、FAX又はEメールにて左記迄お申し込み下さい。

申込み先 事務局 馬江 治喜(E36)
TEL・FAX 045-841-8885
Eメール unae2@ms.dion.ne.jp

陶芸教室へのお誘い



恒例の関東青賞会主催「陶芸教室」を今年も他科の皆さんからも希望者を募らせていただく事としました。

開催日時 10月1日(土)13時より17時30分。
終了後懇親会開催

開催場所 国立市国立自由工房
会費 7,000円(懇親会費含む)
定員 22名(定員になり次第締切)

申込締切 8月31日(水)
申込方法 卒科・年・氏名をA37森芳信迄 FAX又はEメールにて

FAX 04-7184-8443
Eメール 3tree-yoshi@com.home.ne.jp
(集合場所等詳細は申し込み後、案内します)

第200回関東浪速工業会「フルンパ」の報告

E36 竹村 繁幸

初参加者2名を得て、関東浪速工業会として初めて群馬県でのコンペとなりました。高原コースのため、グリーン・フェアウェイに平坦な部分が少ないにもかかわらず、難なく攻略された方も、こざられた方も、名門のコースで好天に恵まれゴルフを楽しんでいたのだと思います。

列車組の方、帰りの新幹線に間に合いませんでした。お疲れ様でした。
日時 平成17年4月25日(月)
場所 伊香保カントリークラブ
戦績 HDCPは新ペリア式による
優勝者 E36 笹治 博司氏



Mニュースに寄稿を歓迎します

趣味、同期会、仕事、体験談等テーマは問いません。郵送・FAX又はEメールで事務局までお寄せください。(広報担当)

次回総会の開催について

次回の関東浪速工業会総会は平成18年1月28日(土)に開催予定です。新しい試みを検討中です。詳しい内容は11月に発行予定の次号Mニュース(32号)にてご案内いたします。(事務局)

台湾水泳マスタースターズに参加して

E36 馬江 治喜



水泳をスポーツジムで本格的に習い始めて二十年近くになりますが、今回初めて海外への水泳マスタースターズ参加の機会を得ました。行き先は台湾と言う事で初めての参加としては距離的にもレベル的にも丁度良いかと思いましたが、しかし時期が関東支部の総会とはちあつてしまい、同期の竹村氏に総会の件はお願いして水泳の方へ参加させて頂きました。

会場は台湾の台南市の屋外50mプール8コースで行われました。日本で11月中頃と言えばいくら暖冬といっても屋外でのプールの水は冷たいが、さすが南国。水温は多少冷たいがお日様が出てくると暑く、日陰と水温が丁度同じくらいでした。会場のプールは直射日光が少しでも和らぐように簾をプールの上に張って気持ちよかったです。私の出場種目はすべて自由型で、200m、100m、そしてリレー(男子4名)の200mである。個人種目はタイムが悪くてもミスしても自己責任で仕方ないが、リレーでは他の参加者へ迷惑をかけるため、特にスタート(飛び込み)には本当に緊張しました。タイムは別にして200mでは4位、100mでは6位とメダルに届かなかったが、リレーでは他の参加者の力泳で2位となり銀メダルを獲得しました。外国でのメダルと記録表を頂いたのは初めてで、本当に良い記念となりました。ただ個人種目で400mがあればヒョッとすればメダルを頂けたと思いますが、これは自己評価であり次回を200m、100mでもメダルを獲得できる様に練習に励む思いです。

皆様はすでにご存知と思いますが水泳は九十歳以上になっても続けている人も多数おられます。又マスタースターズ大会は年齢毎(五歳間隔)の記録で表彰して頂ける為、同じ年齢者と比べて自分のレベルがはつきりとわかる為、私は寝たきりにならない様に動ける間は続けていきたいと思っています。



銀メダルと表彰状

第6回全国高等学校選抜ラグビー大会観戦記

C18 秋月 勝美



都工 勝利

今年の選抜大会は、春の高校野球と同じく地区選抜方式により、二十四校が選抜され優勝を争う事となりましたが、近畿地区代表に、大阪より四校が選ばれ、(東海大仰星、大阪工大高、啓光学園、近大附属)強豪群の中、都島工が推薦枠校として、出場の権利を得まして、近畿地区大阪代表の一枚に加わり、初出場する事になりました。会場は埼玉県立熊谷ラグビー場で、四月一日、七日迄開催されました。この競技場は二面のグラウンドと練習場、ドーム等を備え、設備面も満点の最近建設された競技場で、今後の競技には大

阪の花園は使用せず、熊谷になるのではと噂でした。都島工は、初日一回戦に、5回出場経験のある、札幌山の手高(北海道)の強豪と対戦する事になり、母校大阪からは選手の数人、父兄を始め、浪速工業会森田理事長、西井前理事長、帖地氏、藤原氏他数名の方々が応援に来られ、関東浪速工業会からはE25卒別所氏、E27卒千代山氏、事務局馬江氏と、埼玉に居住の私が参加致しました。

試合はプレー開始後早々に、相手の反則もあり5点を先取、幸運なスタートを切りましたが、その後一進一退の好勝負となり、応援にも力が入り、好機になると「走れ走れ、押し押し」の叫びが響き渡っていました。後半戦終了2分前で札幌20点、都島工19点の1点差の接戦で札幌に押し捲られ、もうダメとあきらめ、負けると思っていました。2分間のロスタイムで、勝利の女神のお呼びがあったのか、奇跡的にゴールインで逆転、20対26で勝つ事ができました。都島工の「勝利」が決まった瞬間、大歓声と父兄の号位には本当に心を打たれました。

翌四月二日二回戦は、初出場であるが、花園では二〇回の出場経験のある若狭学園(茨城)と対戦することになったので、A科25年卒西坂氏をお誘いして応援に駆けつけました。相手高校は一回戦の競技がなく、選手も大粒揃いで試合開始。都島工は昨日の疲れがあったせいかわきも鈍く、相手に先手、先手を取られ、応援の甲斐も無く、若狭高84点、都島工0点で惨敗。三回戦に進めず、ギター侍のセリフで「残念！」然し初出場で強豪の札幌に勝つ事が出来たので、それから出場選手に健闘を賞賛し、来年の選抜にも出場出来るよう精進されん事を願望する一人です。

三回戦は勝者の若狭学園対啓光学園(大阪)で争われ、0対20で啓光学園の圧勝で終わり、大会の優勝校は、4年ぶり2回目の、啓光学園高校(大阪)でした。(昨年の優勝校は天理高校)

この大会に都島工が初出場し、関東の熊谷で開催される事を、大阪本部より連絡が有りましたのが、試合日の2週間前でしたので、パソコンをお持ちの方には、メールでお知らせしましたが、他の会員皆様には、日程の都合でお知らせ出来なかったことを事務局に代わりお詫び申し上げます。

最後に大変感心した事をお伝えいたします。というのは試合終了後、応援席のゴミをわが都島工の生徒が拾い集めていました。今の若者はゴミを散らかす事はしても、ゴミを拾い集めることを見た事に本当に感心しました。



都島工が初戦突破

高校選抜ラグビー

高(大阪)に敗れた。同場であった。しかし、何回も大会8強の若狭工(佐賀)しんが試合をした。どの位なげなげな前線へ進んだが、前線陣の深谷(埼玉)は、初出場の在WTF長瀬が突き、右翼(福岡)に敗れた。大東大(東京)、鹿野(愛知)も初戦を飾った。第2日目の試合は、2回戦8試合で、都島工の初戦は4試合の計12試合をこなす。毎日新聞社主催の「一決める」の一念、ロスタイム逆転、全国大会一歩手前で、何回も辛抱なめた都島工。劇的な逆転で初勝利の喜びを味わった。札幌山の手PG成功で19:20と、時計の更には都島工が校名変更した。PGは30分を示した。「ロスタイムは2分」のアナウンス、絶体絶命の

ベトナムに遺すギリシャ文明の残影(ミーソン遺跡)

A27 田中 瑛也



写真1

インドチャイナ半島の海岸に沿って、带状の国土で国家を形成するベトナムは、北部首都ハノイ、中部タナン、南部ホーチン(ミン市(サイゴン))と大きく三都市によって、政治、経済、文化等が、共通はするが一面異質な面を見せる。北部は、古来より中国との干渉で歴史が形成され、南部は、クメール人の建国した古の国家真臘しんろうが礎となつて成立した経過がある。

概して中国文明とインド文明の混淆の中に東南アジア文明は生まれ、歩み続けたこのベトナムの地において、今回取り上げる中部に遺したチャンパ王国の存在は、海のシルクロード回廊の証を輝き出している。沿海地帯、北緯18度から21度付近の地にAD192年に起こり、15世紀末に史上から消え去った林邑とも呼ばれた国家である。この国家の史上に果たした功績は、港湾都市ホイアンに程近い世界遺産にも登録されたミーソン遺跡をはじめとして、この地に数多くのヒンズー遺跡を遺したことである。勿論ホイアン、フエと中部の両都市とも世界遺産の登録は得ている。主題として扱うミーソン遺跡は、人里離れた四方山に囲まれた聖域、霊験あらたかな宗教遺跡群である。(写真1)

ミーソン遺跡は、隣国カンボジアのアンコール・ワット、ミャンマーのパガン遺跡に比べて、規模は大きくないが、チャンパ王国が築いたユーラシア大陸最東端のヒンズー教の寺院としてヒンズー教の寺院であった。王国滅亡後も部族間の抗争、中国との戦い、最近では米軍によるベトナム戦争時の空爆等で遺跡の大部分は損傷を受け、失われたが遺された遺跡から往時を偲ぶ。

余談ではあるがベトナムは大乗仏教の国であり、北部地方は中国の影響もあり儒教の教えも浸透し、ハノイに遺す文廟等の建物も名を広く知られ大乗仏教寺院としての一柱寺も寺院としては著名である。

ところでミーソン遺跡は(写真2)、ヒンズー教の流派としてシヴァ派に属し、守護神として奉る。守護神の容姿は、煉瓦が積み上げられた壁面に彫られ、顔はそぎ落とされた無惨な容姿の神像も数多く見られる。ドイツの文豪ゲーテの詩に「神と舞姫」と題される詩があるが、その詩的空間さながら神の像に混じって壁面に舞姫の姿も浮き彫りに現出して、しばしばヒンズー教の持つ独特のエロスの空間へと引き入れられる。この宗教建築の特色の一つは、すべて煉瓦による組積造で造られ、使用されるレンガは木を燃料として焼かれた焼成煉瓦である。そして煉瓦と煉瓦との目地は、モルタルを使わずフタバガキと呼ばれる植物の樹液で接着させている。インドチャイナは、地理的に熱帯から亜熱帯に存在する国土だけに繁茂する植物の種目が多く、住民は



写真2



写真3

植物を使う才能に長けていた。次いであげられる特色は、煉瓦を少しづつずらして積み上げる迫りだし構造である。(写真3)

方形の平面に壁を立ち上げて、舟形の天井は少しづつ煉瓦をずらして屋根を構成する。西アジア、中東地方で見られるイスラム教モスクのような巨大な空間を構成することとは至難であるが、木造で屋根を構成していた当時の状況から考えると工法の転換が見られる。唯組積造の持つ欠点である上部の構造の重力を支える壁の開口部が小さくしかとれないので、光線が内部に入るのが少なく、室内が暗いのは否めない。祠堂の前庭には、ヒンズー教のシンボルであるリンガ(男根)(写真4)も置かれていたが、一際目立つのは茶褐色の建物に囲まれて並べられていた白いギリシャ建築の柱である。ドーリア式の礎部はロータス(蓮)(写真5)が刻まれ、柱と基礎の接点は地中海の遺跡で幾度となく見た鉄棒を用いて組み立てる穴も見られる。おそらく、組積造での建築工法の限界に挑んで、西方から架構式の祠堂の建設を試みた痕跡か、興味を持たせる。ミーソンの祠堂を築いた当時の治世者、信奉した民衆の篤き宗教心の伝わりを感じると共に、陸のシルクロードのみならず、海のシルクロードによつての東西文明の交流の足跡の一端が、建築という具象物を通じて我々に開示したことは、この遺跡の存在価値を一段と高める。



写真4



写真5

Mニュースお届け方法の変更!

平成元年6月にMニュース創刊号を発行以来、年2回(春秋)Mニュースを発行し関東支部各会員の皆様へ郵送してきました。しかし現在、パソコンの普及が目覚しく、多くの会員がEメール等を大いに活用されている事と思います。以上のことを考慮し、郵送経費の削減と発送事務の省力化の為に、次号よりメールアドレスをお持ちの方には、Eメールでお届けしたく考え目下準備中です。そのために今号31号よりA4サイズ、4頁の構成に紙面を刷新致しました。

今後EメールにてMニュースを送付希望の方は、事務局馬江(左記アドレス)宛にEメールでご連絡下さい。自宅又は勤務先等ご都合のよいアドレスをお知らせください。(但し携帯のアドレスは不可)しかし今まで通りの郵送を希望される方には従来通り郵送でお届け致します。経費削減と発送事務省力化に会員皆様のご協力よろしく願ひ申し上げます。事務局アドレス umae@am3.dion.ne.jp

次号の
Mニュースは
平成17年11月
発行予定です。

訃報

- M・10 松本 秀典氏
2004年7月29日
- A・13 野村 久克氏
2004年7月6日
- CI・32 陰山 晃次氏
2004年8月22日
- E・12 戸田 雅夫氏
2004年2月8日
- E・12 中矢 慶三氏
2005年2月27日
- C・21 西田 肥佐雄氏
(第26代・理事長)
2005年3月23日
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。